

## 研究に関するお知らせとご協力をお願い

2022年 11月 28日

横浜医療センター 産婦人科では、下記の研究を行います。  
この研究は条件を満たす患者さん全員を対象といたします。もし、この研究への参加を希望されない場合には、対象とはいたしませんので、お問い合わせ先にお申し出ください。お申し出になられても、診療を受ける上で不利益を被ることはございませんのでご安心ください。

### ■研究名

『当院の進行卵巣癌・卵管癌・腹膜癌治療戦略における PARP 阻害薬導入の影響についての後方視的検討』

### ■研究代表者

国立病院機構横浜医療センター 産婦人科部長 最上 多恵

### ■研究の対象となる方

2014年1月1日から2024年3月31日までの期間に、当院産婦人科で治療開始された進行卵巣癌・卵管癌・腹膜癌の患者様

### ■ご協力頂く内容

上記の対象期間中に診療録に記録された診療情報を、研究に使用させていただきます。使用に際しては、政府が定めた倫理指針に則り、個人情報に厳重に保護した状態で行います。

### ■研究の概要

#### 研究の目的及び意義

PARP 阻害薬は新しい種類の分子標的薬で 2019 年の保険適用以降、広く卵巣癌治療に用いられるようになりました。この薬のあとに再発したときの治療経過や方針には未確定なことが多くあります。

そこで、当院における進行卵巣癌に対する PARP 阻害薬治療後の実態について解明することを目的として本研究を行います。

#### 研究の期間

2022年 倫理審査委員会承認日 ～ 2024年3月31日

### 研究の方法

当院の電子カルテから診療情報（診断名、年齢、手術日、術式、組織型、病期、再発状況、生存状況など）を統計的に解析します。

### 個人情報等の取り扱い

電子カルテシステムから抽出されたデータに、電子カルテを直接閲覧して得られた追加データを入力したのち、連結可能匿名化して解析を行います。

直ちに個人を特定できる個人情報を削除された形で提供します。

### 利益相反に関する状況

開示すべき利益相反は特にありません。

### 研究に関する情報公開の方法

学会発表・論文作成が行われます。

#### ■ 研究対象者等及びその関係者からの相談等への対応

本研究は既存の診療録情報を利用した後方視的疫学研究であり、対象者への文書や口頭によるインフォームドコンセント取得は困難であるため、相談に対しては個別に対応します。お問い合わせ先までご連絡ください。

#### ■ お問い合わせ先 ※平日 8 時 30 分 ～ 17 時 15 分

独立行政法人国立病院機構 横浜医療センター

産婦人科部長 最上 多恵（当院 研究責任者）

〒245-8575 横浜市戸塚区原宿 3-60-2 電話 045(851)2621（代表）